

# 岡山県南部水道企業団

## 2026年度 水質検査計画



イオンクロマトグラフ分析装置及びボンストカラム吸光光度分析装置

### 【水質検査計画とは】

水質検査の適正化と透明性を確保するために、「検査地点」「検査項目」「検査頻度」を示すものであり、水源から受水団体への供給地点に至るまでの水質の状況を把握するために策定します。

水質検査は、水道水の水質管理が的確に行われ、水質基準に適合する水道水が確実に供給されているかを確認するため定期的に行うものです。また、水質検査計画及び水質検査結果についてはホームページで公表するとともに、次年度の水質検査計画に反映させていきます。

当企業団では、安全で良質な水道水を安心してご利用いただくため、水源から受水団体への供給地点まで徹底した水質管理の実施に努めて参ります。

---

目 次

---

1. 基本方針	p. 1
2. 水道事業の概要	p. 2
3. 水道の原水及び水道水の状況	p. 5
4. 定期的な水質検査の項目・頻度及び地点	p. 8
5. 水質検査方法	p. 10
6. 委託の範囲	p. 11
7. 委託した検査の実施状況の確認方法	p. 11
8. 臨時の水質検査	p. 11
9. 水質検査計画及び検査結果の公表の方法	p. 12
10. その他水質検査計画の実施に際し配慮すべき事項	p. 13

## 1. 基本方針

### (1) 目的

水道水が水質基準に適合し、安全であることを保証するために、水道法で検査することが義務付けられた水質検査などを実施することを目的としています。

### (2) 検査地点

水道法施行規則で定められた受水団体への供給地点及び浄水場の出口のほか、原水や浄水場の浄水過程における必要な地点とします。

### (3) 検査項目

以下に挙げる4種類の項目とします。

#### ① 毎日検査項目

受水団体への供給地点で毎日の検査を水道法施行規則により義務付けられている3項目

#### ② 水質基準項目

水道法で検査が義務付けられており、適合していなければならない52項目

#### ③ 水質管理目標設定項目

水質基準以外にも、水質管理上留意すべき26項目

#### ④ 維持管理上必要な項目

原水や浄水場の浄水過程において、当企業団独自の判断で水質状況を把握するために必要と思われる項目

### (4) 検査頻度

検査地点や項目により異なりますが、供給される水道水の安全が確認できるよう十分配慮して決定します。

## 2. 水道事業の概要

昭和25年2月18日に企業団の前身である岡山県南部上水道配水組合（玉野市・児島市・児島郡琴浦町・児島郡福田町・浅口郡連島町）が設立され、西阿知町及び水島工業都市開発株式会社から「水島水道」を購入し、2市3町による水道用水供給事業を行うこととなりました。

その後、市町合併と昭和45年8月1日に灘崎町を構成団体に加え、平成17年3月22日に灘崎町の岡山市編入により、現在の倉敷市・玉野市・岡山市の3市に水道用水を供給する企業団となり、現在に至っています。

### (1) 送水状況（2024年度末現在）

① 給水区域	倉敷市・玉野市・岡山市
② 給水人口	174,069人
③ 年間総送水量	26,296,240m <sup>3</sup> /年
④ 1日最大送水量	81,240m <sup>3</sup> /日
⑤ 1日平均送水量	72,044m <sup>3</sup> /日

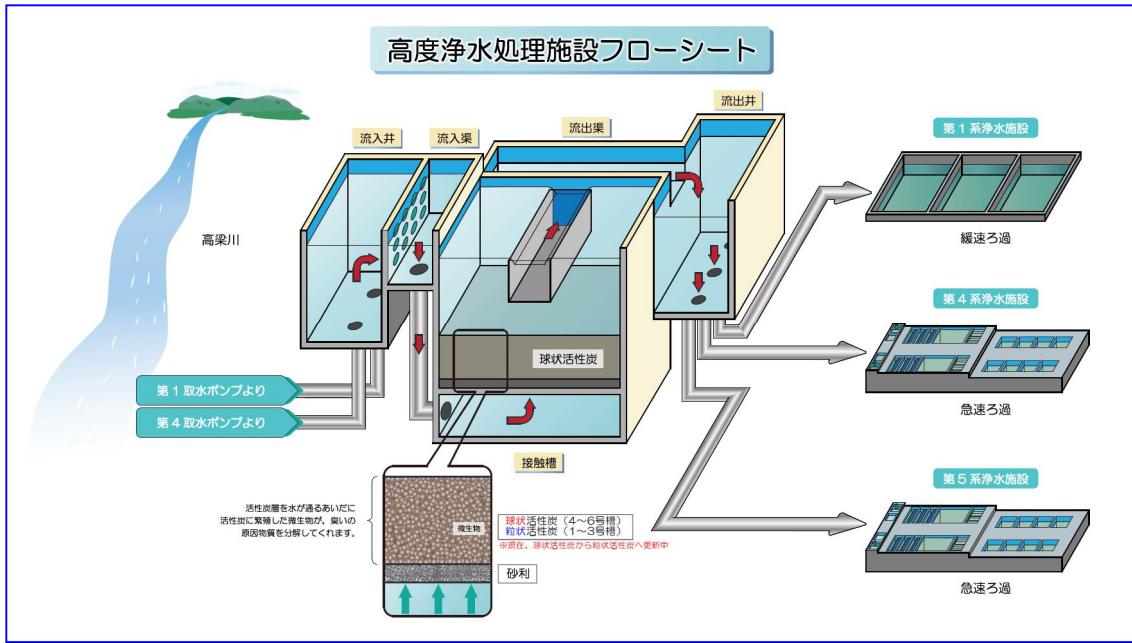
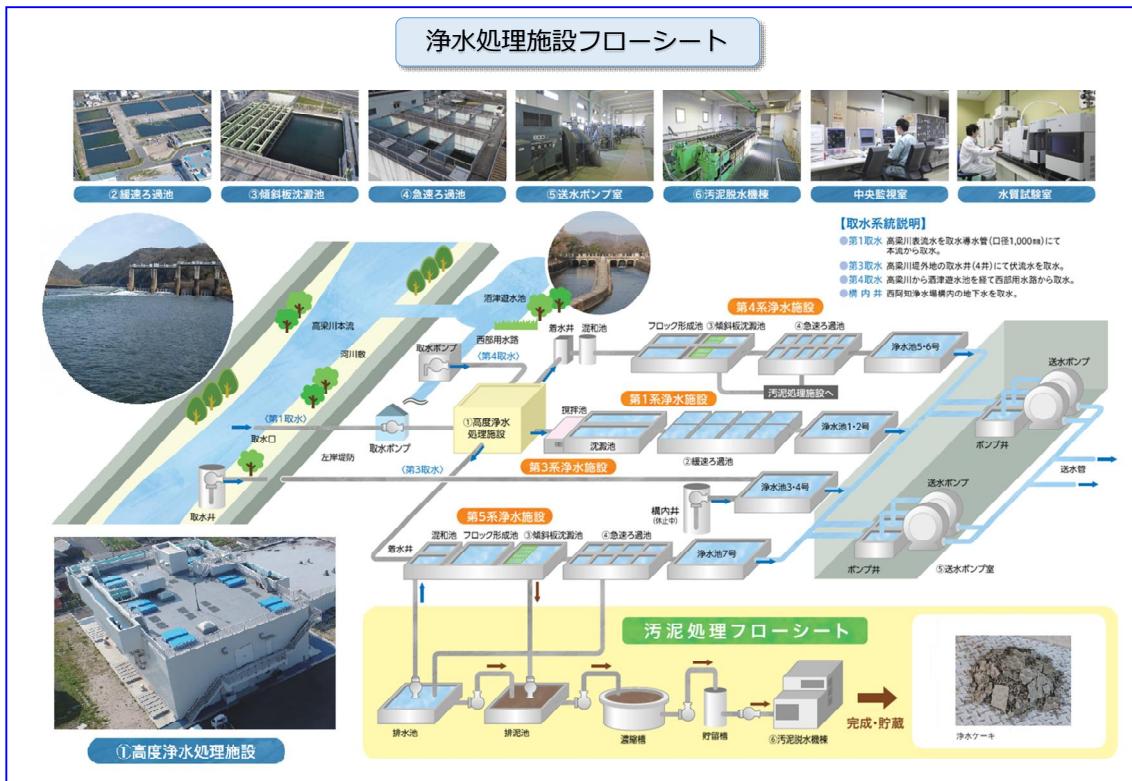
### (2) 施設規模及び能力

① 浄水場所在地	岡山県倉敷市西阿知町247番地の1
② 敷地面積	52,263.56m <sup>2</sup>
③ 取水能力	120,000m <sup>3</sup> /日
内訳	表流水 80,000m <sup>3</sup> /日
	伏流水 37,000m <sup>3</sup> /日
	構内井 3,000m <sup>3</sup> /日 (休止中)

#### 浄水処理方法

水源	施設名	浄水処理方法		浄水処理能力
高梁川表流水 <sup>(a)</sup>	第1系	高度 浄水処理	緩速ろ過処理	30,000 m <sup>3</sup> /日
	第4系		急速ろ過処理	30,000 m <sup>3</sup> /日
	第5系			20,000 m <sup>3</sup> /日
高梁川伏流水 <sup>(b)</sup>	第3系	塩素消毒処理		37,000 m <sup>3</sup> /日
地下水 <sup>(c)</sup>	構内井			3,000 m <sup>3</sup> /日 (休止中)

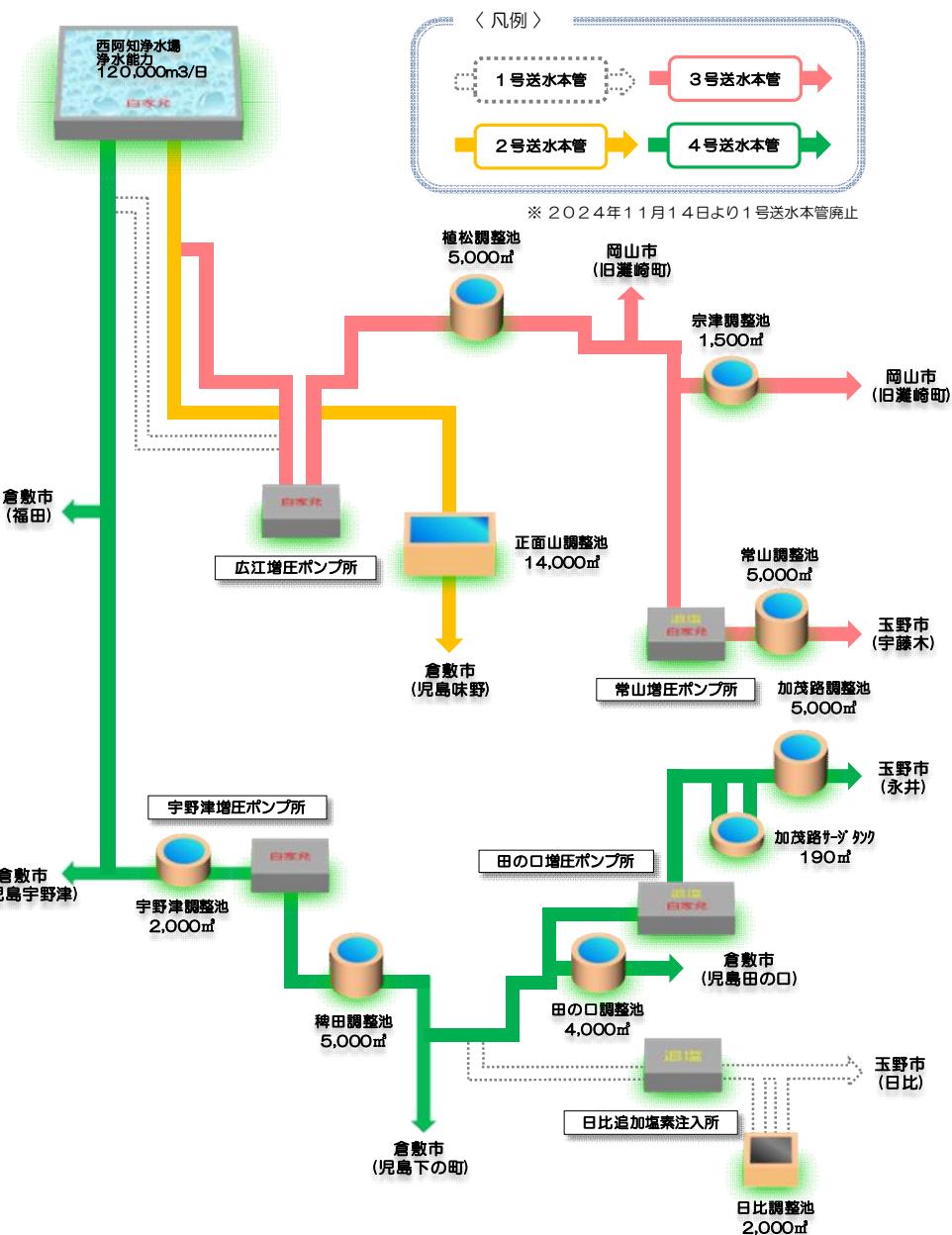
- ④ 送水能力 120,000m<sup>3</sup>/日
- ⑤ 増圧ポンプ所 広江・宇野津・常山・田の口
- ⑥ 追加塩素注入施設 常山・田の口



#### ※ 原水の種類について

- (a) 表流水…河川や湖沼など、地表を流れる水のことです。天候の影響を受けやすく、夏、冬で温度差が大きく、大雨等で短時間に濁度が著しく増加することがあります。
- (b) 伏流水…河川敷等の下層の比較的浅い場所にある砂利層を流れる水のことです。砂利層を通る際に自然のろ過作用が働くため、一般的に清浄です。
- (c) 地下水…地表面下にある水のことです。一般的に清浄ですが、滞留時間の長さから地質成分の溶出による影響を受けます。

## 送水施設フローシート



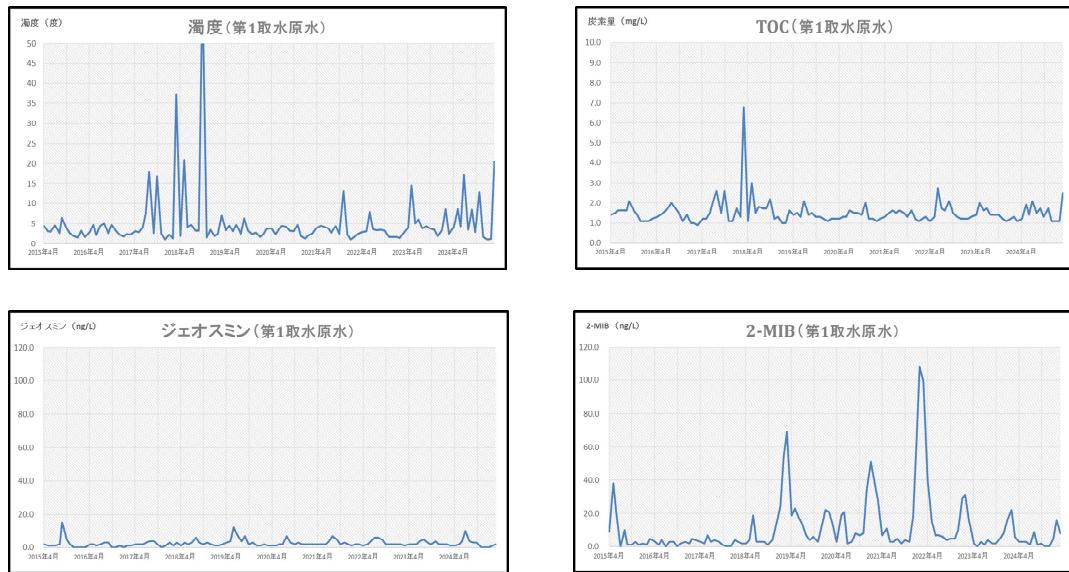
### 3. 水道の原水及び水道水の状況

#### (1) 原水の状況

##### ① 高梁川表流水

高梁川から取水し、高度浄水処理を経て緩速ろ過法・急速ろ過法により清浄なろ過水を得て塩素消毒をします。通常の水質は良好ですが、表流水は環境の影響を受けやすく、降雨により濁度の上昇や、TOC<sub>(w)</sub>の増加が目立ちます。

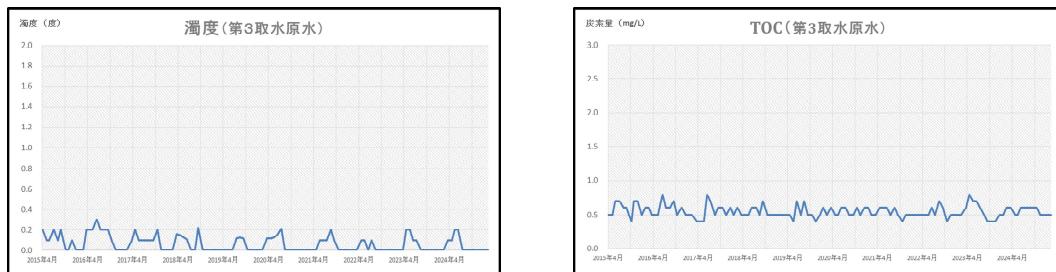
また過去には、高梁川表流水のかび臭物質（ジェオスミン<sub>(e)</sub>及び2-MIB<sub>(f)</sub>）濃度が異常に上昇した経緯があります。そこで、2014年度にガスクロマトグラフ質量分析装置を導入し、定期的にかび臭物質濃度を検査しております。また、2016年度に高度浄水処理施設が稼働し、かび臭物質の除去を図るとともに水道水の安全性を確保しています。



高梁川表流水の水質（過去 10 年間）

##### ② 高梁川伏流水

伏流水は清浄な水質を保っているため、塩素消毒だけを行っています。



※伏流水においては、ジェオスミン及び2-MIBの検出歴はないためグラフは省略とします。

高梁川伏流水の水質（過去 10 年間）

### 原水の状況と留意すべき注意点

水源	原水汚染要因	水質管理上注意すべき項目	浄水処理上の対応
高梁川表流水	降雨等による原水水質の変化	原水濁度の上昇	凝集剤の適正注入
	生活排水の流入	浄水中のトリハロメタンの増加	粉末活性炭の注入（※1）
	藻類等の発生	かび臭等の発生	粉末活性炭の注入（※2）
		生物によるろ過池の目詰まり等	塩素処理の強化
	畜舎排水の流入	病原性原虫類の混入	ろ過水の濁度管理
	油・毒物等による突発汚染事故	油流出事故による臭気事故 毒物混入	魚類監視装置の設置 粉末活性炭の注入 取水停止
高梁川伏流水	水質が安定	濁度管理	

※1：粉末活性炭の注入により、原水中の有機物、臭い及び農薬類を吸着除去することができます。

※2：高濃度のかび臭物質が発生した場合において、高度浄水処理施設によるかび臭の吸着除去が満足できないと判断した場合にのみ行います。

### ※ TOC 及びかび臭物質について

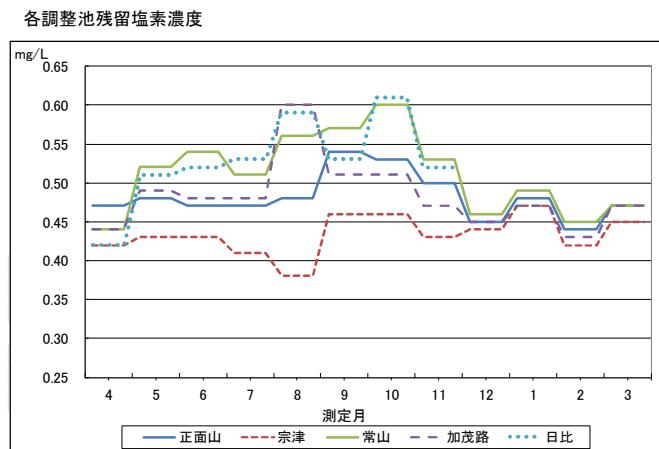
(d) TOC…全有機炭素 (Total Organic Carbon) の略称です。水中に含まれる有機物総量の指標で、原水の汚れの状況や浄水処理過程の評価に利用することができます。

(e) ジェオスミン…(4S・4aS・8aR)-オクタヒドロ-4・8a-ジメチルフタル-4a(2H)-オールの別名です。かび臭の原因物質の一つであり、藍藻類のアナバナ等により産出されます。純かび臭の臭いで、人の嗅覚で判断できる量は 10ng/L であるとされています。

(f) 2-MIB…2-メチルイソボルネオールの略称で 1・2・7・7-テトラメチルビシクロ[2・2・1]ヘプタン-2-オールの別名です。かび臭の原因物質の一つであり、藍藻類のフォルミジウム等により産出されます。墨汁のような臭いで、人の嗅覚で判断できる量は 5ng/L であるとされています。

## (2) 浄水の状況

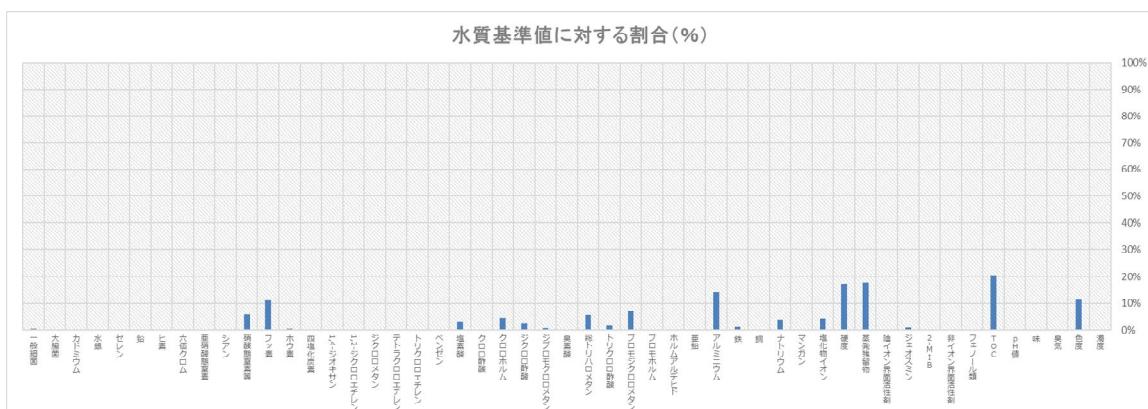
水道水の状況については、水道法施行規則に基づき受水団体への供給地点で毎日検査を行い安全確認をしています。当企業団は長い距離を送水することから、残留塩素濃度については浄水場出口で0.60mg/Lと設定し、受水団体への供給地点において0.30mg/Lを下回らないように管理しています。また、必要に応じて追加塩素の注入を行い、水道水の安全性を確保しています。



### 各調整池の残留塩素濃度

水質基準項目においては、浄水場出口にて毎月1回検査を行っており、水道水の安全性を確保しています。

過去10年間の水質基準項目の平均値においては、かび臭物質(ジェオスミン及び2-MIB)について、ジェオスミンの検出値の方が高くなっていますが、平均すると基準値の約1%程度に抑えられています。また、トリハロメタン等の消毒副生成物の検出値も平均すると基準値の約6%程度と低くなっています。そのほかの項目についても水質基準を大きく下回っており、良好な水道水を供給できています。



## 浄水場出口の水質

(過去 10 年間の各項目平均値の水質基準値に対する割合)

岡山県南部水道企業団  
2026年度 水質検査計画

## 4. 定期的な水質検査の項目・頻度及び地点

### (1) 水質検査項目・検査頻度及びその理由

水道法及び水道法施行規則で検査が義務づけられている毎日検査項目・水質基準項目に加えて、水質管理上留意すべき項目として水質管理目標設定項目・浄水処理の維持管理に必要なその他項目について検査を行います。

令和7年6月30日に「水質基準に関する省令」が改正され、令和8年4月1日よりPFOS<sub>(g)</sub>及びPFOA<sub>(h)</sub>が水質管理目標設定から水質基準項目に引き上げられます。そこで、PFOS及びPFOAの検査回数を浄水場出口：年12回・供給地点：年4回に増やし、水質監視体制の強化に努めてまいります。

- ① 毎日検査項目（色・濁り・残留塩素）は、浄水場出口・広江増圧ポンプ所・宇野津増圧ポンプ所・正面山調整池・常山増圧ポンプ所・常山調整池・田の口増圧ポンプ所・加茂路調整池において自動水質測定装置により測定を行います。
- ② 水質基準項目の検査は、浄水場入口・浄水場出口及び受水団体への供給地点で行います。
- ③ 水質管理目標設定項目は、水質基準項目の検査に準じて、検査地点及び頻度を設定し、検査を行います。
- ④ 供給される水道水が常に安全で良質であることを把握するため、当企業団独自の判断で、水質管理上必要と認めた箇所については、検査項目及び検査頻度を追加して検査を行います。
- ⑤ 2026年度の水質検査頻度は、水質基準項目（表1）・水質管理目標設定項目（表2）・その他項目（表3）・農薬類（表4）に示したとおりに行います。また、表に示している項目・地点・頻度以外にも、原水や浄水場の浄水過程において、当企業団独自の判断で水質状況を把握するために必要と思われる項目は追加して実施しております。検査頻度について、水道法施行規則に基づき、その濃度が基準値の10分の1以下の場合には3年に1回、5分の1以下の場合には1年に1回まで検査頻度を緩和できる項目についても、水質が安定し良好であることを確認するため、浄水場出口においては毎月1回検査を行います。

### (2) 検査地点

- ① 原水の状況を把握し的確に反映させるため、浄水場において原水の種類ごとに定期的に検査を行います。
- ② 浄水においては、浄水場の出口及び法的に定められた地点（用水供給事業の場合受水団体への供給地点）で行います。  
基本的には、当企業団の責任分界点である供給地点となります。送水過程で変化しない項目は、浄水場出口で供給される水道水で確認することにしました。
- ③ 送水過程で変化する項目については、当企業団の末端における供給地点を検査地点とします。

#### ④ 採水場所

浄水場入口

表流水（2地点）・伏流水（1地点）

浄水場出口

供給地点

正面山調整池・宗津調整池・常山調整池・加茂路調整池



高梁川



第1取水（取水口）

#### ※ PFOS 及び PFOA について

(g) PFOS…ペルフルオロ（オクタン-1スルホン酸）の略称で、半導体用反射防止剤・レジスト、金属メッキ処理剤、泡消火薬剤等に使われてきました。

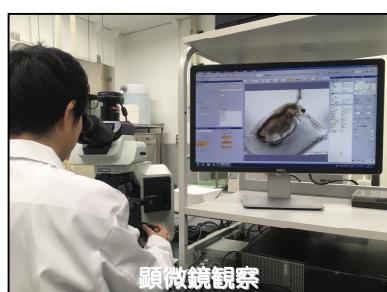
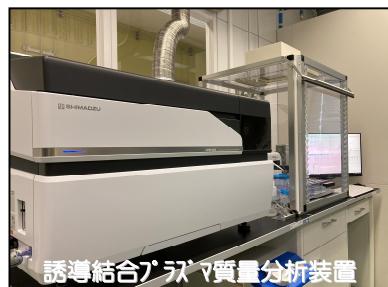
(h) PFOA…ペルフルオロオクタン酸の略称で、フッ素ポリマー加工助剤、界面活性剤等に使われてきました。

いずれも難分解性、高蓄積性、長距離移動性という性質を持ち、人においてはコレステロール値の上昇、発がん、免疫系等との関連が報告されています。

## 5. 水質検査方法

水質検査は、当企業団で検査可能な項目については自己検査で行いますが、検査できない項目については委託検査機関に委託しています。

検査項目は水質基準項目・水質管理目標設定項目・その他項目で、その検査方法は環境省が定めた水道水の検査方法「水質基準に関する省令の規定に基づき環境大臣が定める方法」等により実施しています。



各水質検査項目の検査風景

## 6. 委託の範囲

### (1) 具体的な検査項目・頻度

水質検査の自己・委託の区分及び検査頻度は、表1～表3のとおりとします。また、不測の機器故障等が発生した場合、検査区分が自己となっている項目についても委託検査機関により検査を行うことがあります。なお、採水については、採水予定表に従い行っています。

### (2) 試料の採取及び運搬方法

#### ① 試料容器の準備

委託検査に必要な試料容器は委託検査機関が用意します。

#### ② 採取方法

試料の採取については、採水の手引きに従い、当企業団の職員が行います。

#### ③ 運搬方法

試料を運搬する時は、試料の水質変化及び試料容器破損防止のため、専用のクーラーボックス内に収納し、氷冷して当企業団の職員が運搬します。

### (3) 臨時検査の取扱い

臨時検査の必要性が生じた場合は、継続的に水質を評価する観点から、定期検査と同一の委託検査機関が速やかに行います。

## 7. 委託した検査の実施状況の確認方法

水質検査の結果の根拠となる書類、精度管理の実施状況及び環境省による外部精度管理調査に係る資料、水質基準項目に関する品質管理の認証（水道GLP）取得やこれに類する取組の状況に関する書類を確認します。また、分析条件、検量線（相関係数も含む）、クロマトグラム並びに濃度計算書等の資料を確認し、必要に応じて、委託検査機関への立入検査を行います。

## 8. 臨時の水質検査

次のような事態が発生し、浄水処理で対応できず、浄水場出口の水質が水質基準を超える恐れがある場合は、直ちに取水を停止するなどの処置を講じ、臨時の水質検査を実施し、安全性が確認されるまで継続します。

- (1) 水源の水質に異常があった場合
- (2) 水源の水質が著しく悪化した場合
- (3) 臭気及び味に著しく変化が生じた場合
- (4) 魚類監視から異常を認めた場合
- (5) 水源付近、給水区域及びその周辺で消化器系感染症が流行した場合
- (6) 浄水処理過程及び送水施設で水質異常が発生した場合
- (7) その他、特に必要がある場合

## 9. 水質検査計画及び検査結果の公表の方法

- (1) 水質検査計画は毎年見直しを行い、状況に応じてその都度改正をします。
- (2) 水質検査計画に基づいて実施した水質検査の結果は、速やかにホームページにおいて公表します。

法令に基づく水質検査							
水質検査結果及びその基準値							
採水地名	西河知余水場 出口	水温	18.9 ℃	検水年月日	2026年4月1日	総 基 準 値	
分類	地 点	株置 基 準	(基準値)	分類	地 点	株置 基 準	
1	一般河川	0.01 mg/L	(100)	32	農地排水の混合物	0.01 mg/L	(1)
2	大河川	基準		33	フルニコル及びタスの化合物	0.03	
3	かきづき(サザンカの混合物)	0.00015	(0.0001)	34	鈴及びその混合物	0.015	(0.005)
4	水没及び干出の化合物	0.00005	(0.00001)	35	鈴及びその混合物	0.01	(0.005)
5	セシジンなどの混合物	0.001	(0.001)	36	マングン及びその化合物	0.001	(0.0001)
6	鈴及びその混合物	0.001	(0.001)	37	マングン及びその化合物	0.001	(0.0001)
7	ヒドロゲン化物	0.001	(0.001)	38	硫化物イオン	9 μg/L	(200)
8	アノニア(アノニアの混合物)	0.001	(0.001)	39	硫酸イオン	39	(100)
9	臭味物質	0.004	(0.004)	40	亜光素酸	74 μg/L	(1000)
10	シアン化イオン(シアン化シアン)	0.001	(0.001)	41	緑・イノキ葉酸塩	0.02	(0.005)
11	硝酸銀及び銀鉄酸銀	0.61	(0.01)	42	ジニオステン	0.000001	(0.000001)
12	フッ素及びその混合物	0.05	(0.01)	43	2-メチルブチルアルコール	0.000001	(0.000001)
13	ホウ素及びその混合物	0.01	(0.01)	2	3-(イソブチル)酢酸	0.005	(0.005)
14	硫酸イオン	0.0002	(0.0002)	3	ブチルル酸	0.000001	(0.000001)
15	ヨードイオドガラ	0.001	(0.001)	4	硫酸根(硫酸根)(7月1日付)	0.7	(100)
16	シラーゼ-2-デヒドロエチレンジ	0.0002	(0.0002)	5	pH値	7.29	(9.0-14)
17	ジクロロメタ	0.0002	(0.0002)	6	緑	真なし	(0.0000-0.02)
18	テトラクロロエチレン	0.0002	(0.0002)	7	臭気	真なし	(0.0000-0.02)
19	トリクロロエチレン	0.0002	(0.0002)	50	色度	0.5 #	(5)
20	トリクロロエチレンの混合物	0.000005	(0.000005)	51	潮度	0.1 8.8%	(1)
21	ペーベン	0.000001	(0.000001)				
22	塩素	0.07	(0.01)				
23	クロロ酢酸	0.002	(0.002)				
24	メチルアルコ	0.001	(0.001)				
25	シクロヘキサン	0.002	(0.002)				
26	ジクロモクロロメタン	0.001	(0.01)				
27	臭素	0.001	(0.001)				
28	トリクロロメタン	0.009	(0.009)				
29	トクゴロ	0.002	(0.002)				
30	ブロモエチル	0.001	(0.001)				
31	ブロモカルボヒド	0.005	(0.005)				

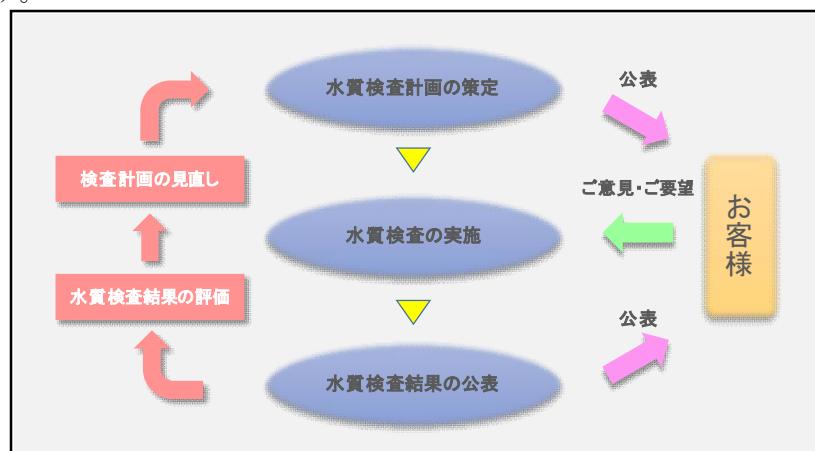
※基準値の単位は濃度(μg/L)または色度(8.8%)です。

**判 定**

水 質 基 準 に  
適 合 す る

**ホームページ掲載書式**

- (3) 過去の検査結果や水質基準との比較により検査結果を評価し、水質が悪化する傾向のある水源については検査項目・頻度を増やすなど、次年度の水質検査計画に反映させます。



水質検査計画策定のイメージ

## 10. その他水質検査計画の実施に際し配慮すべき事項

### (1) 水質検査の精度と信頼性保証

水質検査の精度については、原則として水質基準値の1/10の定量下限が得られ、その1/10付近の測定において、変動係数（CV値）が無機物で10%以下、有機物で20%以下の精度で水質検査を行います。また、検査結果の測定者によるバラツキをなくすために、検査項目ごとに標準作業手順書を整えて、安定的な精度確保に努めます。

信頼性については、定期的に内部精度管理を実施するとともに、環境省による外部精度管理調査にも積極的に参加し、検査の精度と信頼性を保証するための技術向上に努めます。また、「水道水質検査方法の妥当性評価ガイドライン」（平成24年9月6日付け健水発0906第1号別添〔最終改正：平成29年10月18日付け薬生水発1018第1号〕）に基づき、検査方法の妥当性を確認しています。

委託検査機関である倉敷市水道局については、水道水質検査優良試験所規範（水道GLP）の認定を取得していることから、水質検査の精度と信頼性が保証されています。

### (2) 関係機関との連携について

水道水が原因で水質事故等が発生した場合、当企業団の危機管理マニュアルに沿って、関係機関と連携を密にし、迅速な対応に努めます。

## 水質検査項目と検査頻度

表1 法令に基づく水質基準項目及び検査頻度

No.	水質基準項目	水質基準値(以下「基準値」)	法令に基づく 検査回数	検査計画頻度(回/年)			検査区分
				浄水場入口 表流水	浄水場 伏流水	供給地点	
1	一般細菌	1mLの検水で形成される集落数が 100以下	月1回	12	12	12	自己
2	大腸菌	検出されないこと		12	12	12	
3	カドミウム及びその化合物	カドミウムの量に関して、 0.003mg/L以下	年4回	12	12	12	自己
4	水銀及びその化合物	水銀の量に関して、0.0005mg/L以下	※2, 3	4	4	12	委託
5	セレン及びその化合物	セレンの量に関して、0.01mg/L以下		12	12	12	
6	鉛及びその化合物	鉛の量に関して、0.01mg/L以下	年4回※2, 4	12	12	12	
7	ヒ素及びその化合物	ヒ素の量に関して、0.01mg/L以下	年4回※2, 3	12	12	12	
8	六価クロム化合物	六価クロムの量に関して、 0.02mg/L以下	年4回※2, 4	12	12	12	自己
9	亜硝酸態窒素	0.04mg/L以下	年4回※2	12	12	12	
10	シアノ化物イオン及び塩化シアン	シアノ化物イオン及び塩化シアンの量に関して、0.01mg/L以下	年4回	12	12	12	
11	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	10mg/L以下	年4回※2	12	12	12	
12	フッ素及びその化合物	フッ素の量に関して、0.8mg/L以下	年4回	12	12	12	
13	ホウ素及びその化合物	ホウ素の量に関して、1.0mg/L以下	※2, 3	12	12	12	
14	四塩化炭素	0.002mg/L以下		4	4	12	自己
15	1, 4-ジオキサン	0.05mg/L以下		4	4	12	
16	シス-1, 2-ジクロロエチレン及び トランス-1, 2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	年4回 ※2, 5	4	4	12	委託
17	ジクロロメタン	0.02mg/L以下		4	4	12	
18	テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下		4	4	12	
19	トリクロロエチレン	0.01mg/L以下		4	4	12	
20	ベルフルオロ(オクタン-1-スルホン 酸)(別名PFOS)及びベルフルオ ロオクタン酸(別名PFOA)	0.00005mg/L以下	年4回※2	4	4	12	自己
21	ベンゼン	0.01mg/L以下	年4回※2, 5	4	4	12	
22	塩素酸	0.6mg/L以下		-	-	12	自己
23	クロロ酢酸	0.02mg/L以下		-	-	12	
24	クロロホルム	0.06mg/L以下	年4回	-	-	12	委託
25	ジクロロ酢酸	0.03mg/L以下		-	-	12	
26	ジプロモクロロメタン	0.1mg/L以下		-	-	12	
27	臭素酸	0.01mg/L以下	年4回※3	-	-	12	自己
28	総トリハロメタン	0.1mg/L以下		-	-	12	
29	トリクロロ酢酸	0.03mg/L以下		-	-	12	
30	ブロモジクロロメタン	0.03mg/L以下	年4回	-	-	12	委託
31	ブロモホルム	0.09mg/L以下		-	-	12	
32	ホルムアルデヒド	0.08mg/L以下		-	-	12	
33	亜鉛及びその化合物	亜鉛の量に関して、1.0mg/L以下		12	12	12	
34	アルミニウム及びその化合物	アルミニウムの量に関して、 0.2mg/L以下	年4回 ※2, 4	12	12	12	自己
35	鉄及びその化合物	鉄の量に関して、0.3mg/L以下		12	12	12	
36	銅及びその化合物	銅の量に関して、1.0mg/L以下		12	12	12	
37	ナトリウム及びその化合物	ナトリウムの量に関して、 200mg/L以下	年4回 ※2, 3	12	12	12	自己
38	マンガン及びその化合物	マンガンの量に関して、0.05mg/L以下		12	12	12	
39	塩化物イオン	200mg/L以下	月1回※1	12	12	12	
40	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	300mg/L以下		12	12	12	
41	蒸発残留物	500mg/L以下	年4回 ※2, 3	12	12	12	
42	陰イオン界面活性剤	0.2mg/L以下		12	12	12	
43	ジェオスミン	0.00001mg/L以下	発生時期に 月1回	12	12	12	
44	2-メチルイソボルネオール	0.00001mg/L以下	※6	12	12	12	
45	非イオン界面活性剤	0.02mg/L以下	年4回	4	4	12	委託
46	フェノール類	フェノールの量に換算して、 0.005mg/L以下	※2, 3	4	4	12	
47	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	3mg/L以下		12	12	12	自己
48	pH値	5.8以上8.6以下	月1回 ※1	12	12	12	
49	味	異常でないこと		-	-	12	
50	臭気	異常でないこと		12	12	12	
51	色度	5度以下		12	12	12	
52	濁度	2度以下		12	12	12	

但し、原水や浄水場の浄水過程において、当企業団独自の判断で水質状況を把握するために必要と思われる「検査地点」「検査項目」「検査頻度」については追加して測定を行う。

※1 水道により供給される水に係る当該事項について連続的に計測及び記録がなされている場合にあっては、おおむね3箇月に1回以上とすることができる。

※2 水源に水又は汚染物質を排出する施設の設置の状況等から、原水の水質が大きく変わるおそれがないと認められる場合(過去3年間において水源の種別、取水地点又は浄水方法を変更した場合を除く。)であって、過去3年間における当該事項についての検査の結果がすべて当該事項に係る基準値の5分の1以下であるときは、おおむね1年に1回以上と、過去3年間における当該事項についての検査の結果が、すべて基準値の10分の1以下であるときは、おおむね3年に1回以上とることができる。

※3 当該事項についての過去の検査の結果が基準値の2分の1を超えたことがなく、原水並びに水源及びその周辺の状況を勘案してその全部又は一部を行ふ必要がないことが明らかであると認められる場合は、省略することができる。

※4 当該事項についての過去の検査の結果が基準値の2分の1を超えたことがなく、原水、水源及びその周辺の状況並びに水道施設の技術的基準を定める省令(平成12年厚生労働省令第15号)第1条第14号の薬品等及び同条第17号の資機材等の使用状況を勘案してその全部又は一部を行ふ必要がないことが明らかであると認められる場合は、省略することができる。

※5 当該事項についての過去の検査の結果が基準値の2分の1を超えたことがなく、原水並びに水源及びその周辺の状況(地下水を水源とする場合は、近傍の地域における地下水の状況を含む。)を勘案してその全部又は一部を行ふ必要がないことが明らかであると認められる場合は、省略することができる。

※6 当該事項についての過去の検査の結果が基準値の2分の1を超えたことがなく、原水並びに水源及びその周辺の状況(湖沼等水が停滞しやすい水域を水源とする場合は、当該事項を産出する藻類の発生状況を含む。)を勘案してその全部又は一部を行ふ必要がないことが明らかであると認められる場合は、省略することができる。

表2 水質管理目標設定項目及び検査頻度

No.	水質管理目標設定項目	目標値	検査計画頻度(回/年)				検査区分	
			浄水場入口		浄水場 出口	供給地点		
			表流水	伏流水				
1	アンチモン及びその化合物	アンチモンの量に関して、0.02mg/L以下	12	12	12	12	自己	
2	ウラン及びその化合物	ウランの量に関して、0.002mg/L以下(暫定)	12	12	12	12		
3	ニッケル及びその化合物	ニッケルの量に関して、0.02mg/L以下	12	12	12	12		
4	鉛							
5	1, 2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	2	2	2	-	委託	
6	鉛							
7	鉛							
8	トルエン	0.4mg/L以下	2	2	2	-	委託	
9	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	0.08mg/L以下	2	2	2	-		
10	亜塩素酸	0.6mg/L以下	-	-	12	12	自己	
11	鉛							
12	二酸化塩素	0.6mg/L以下	当企業団では消毒剤として二酸化塩素を使用していないため、二酸化塩素の検査は行いません。					
13	ジクロロアセトニトリル	0.01mg/L以下(暫定)	-	-	2	-	委託	
14	抱水クロラール	0.02mg/L以下(暫定)	-	-	2	-		
15	農薬類(表4)	検出値と目標値の比の和として、1以下	10	2	2	-		
16	残留塩素	1mg/L以下	-	-	12	12	自己	
17	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	10mg/L以上100mg/L以下	12	12	12	12		
18	マンガン及びその化合物	マンガンの量に関して、0.01mg/L以下	12	12	12	12		
19	遊離炭酸	20mg/L以下	2	2	2	-	委託	
20	1, 1, 1-トリクロロエタン	0.3mg/L以下	2	2	2	-		
21	メチル- <i>t</i> -ブチルエーテル	0.02mg/L以下	2	2	2	-		
22	有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	3mg/L以下	当企業団では有機物(全有機炭素(TOC)の量)で評価するため、有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)の検査は行いません。					
23	臭気強度(TON)	3以下	2	2	2	-	委託	
24	蒸発残留物	30mg/L以上200mg/L以下	12	12	12	12	自己	
25	濁度	1度以下	12	12	12	12		
26	pH値	7.5程度	12	12	12	12		
27	腐食性(ランゲリア指数)	-1程度以上とし、極力0に近づける	2	2	2	-		
28	従属栄養細菌	1mLの検水で形成される集落数が2,000以下(暫定)	2	2	2	12	委託	
29	1, 1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下	2	2	2	-		
30	アルミニウム及びその化合物	アルミニウムの量に関して、0.1mg/L以下	12	12	12	12	自己	

表3 その他項目及び検査頻度

No.	その他項目	検査計画頻度(回/年)				検査区分	
		浄水場入口		浄水場 出口	供給地点		
		表流水	伏流水				
1	大腸菌群	12	12	12	12	自己	
2	大腸菌群数(MPN)	12	12	-	-		
3	大腸菌数(MPN)	12	12	-	-		
4	嫌気性芽胞菌	12	12	-	-	委託	
5	電気伝導率	12	12	12	12		
6	総アルカリ度	12	12	12	12		
7	総酸度	2	2	-	-	自己	
8	侵食性遊離炭酸	2	2	-	-		
9	浮遊物質(懸濁物質)	2	2	-	-		
10	化学的酸素要求量(COD)	2	-	-	-	委託	
11	生物化学的酸素要求量(BOD)	2	-	-	-		
12	臭化物イオン	12	12	12	12		
13	硝酸イオン	12	12	12	12	自己	
14	リン酸イオン	12	12	12	12		
15	硫酸イオン	12	12	12	12		
16	カリウムイオン	12	12	12	12	自己	
17	カルシウムイオン	12	12	12	12		
18	マグネシウムイオン	12	12	12	12		
19	アンモニア態窒素	12	12	12	12	委託	
20	クリプトボリジウム及びジアルジア	4	4	4	-		

表4 農薬類(水質管理目標設定項目15)の対象農薬リスト

No.	農薬名	目標値 (mg/L)	No.	農薬名	目標値 (mg/L)
1	1, 3-ジクロロプロベン(D-D) <b>※1</b>	0.05	59	チオジカルブ	0.08
2	2, 2-DPA(ダラボン)	0.08	60	チオファネートメチル	0.3
3	2, 4-D(2, 4-PA)	0.02	61	チオベンカルブ	0.02
4	EPN <b>※2</b>	0.004	62	デブルトリオン	0.002
5	MCPA	0.005	63	テルブカルブ(MBPMC)	0.02
6	アズュラム	0.9	64	トリクロビル	0.006
7	アセフェート	0.006	65	トリクロルホン(DEP)	0.005
8	アトゾジン	0.01	66	トリシクラゾール	0.1
9	アニロホス	0.003	67	トリフルラリン	0.06
10	アミトラズ	0.006	68	ナブロバミド	0.03
11	アラクロール	0.03	69	パラコート	0.01
12	イソキサチオン <b>※2</b>	0.005	70	ビペロホス	0.0009
13	イソフェンホス <b>※2</b>	0.001	71	ビラクロニル	0.01
14	イソプロカルブ(MIPC)	0.01	72	ビラキシブエン	0.004
15	イソプロチオラン(IPT)	0.3	73	ビラリニアート(ビラゾレート)	0.02
16	イソフェンカルバゾン	0.002	74	ビリダフェンチオン	0.002
17	イソプロベンホス(IPB)	0.09	75	ビリブカルブ	0.02
18	イソノクタジン	0.006	76	ビロキロン	0.05
19	インダノフアン	0.009	77	フィブロニル	0.0005
20	エヌブロカルブ	0.03	78	フェニトロチオン(MEP) <b>※2</b>	0.01
21	エトフェンブロックス	0.08	79	フェノブカルブ(BPMC)	0.03
22	エンドスルファン(ベンゾエビン) <b>※3</b>	0.01	80	フェリムゾン	0.05
23	オキサジクロホス	0.02	81	フェンチオン(MPP) <b>※10</b>	0.006
24	オキシン・銅(有機銅)	0.03	82	フェントエート(PAP)	0.007
25	オリサストロビン <b>※4</b>	0.1	83	フェントラザミド	0.01
26	カズサホス	0.0006	84	フサライド	0.1
27	カフセンストロール	0.008	85	ブタクリール	0.03
28	カルタップ <b>※5</b>	0.08	86	ブタミホス <b>※2</b>	0.02
29	カルパリル(NAC)	0.02	87	ブロフエジン	0.02
30	カルボフラン	0.0003	88	フルアジナム	0.03
31	ギクリミン(ACN)	0.005	89	ブレチラロール	0.05
32	キャブタン	0.3	90	ブロミドン	0.09
33	グルロン	0.03	91	ブロチオホス <b>※2</b>	0.007
34	グリホサート <b>※6</b>	2	92	ブロビコナゾール	0.05
35	グルホシネット	0.02	93	ブロビザミド	0.05
36	クロメブロップ	0.02	94	ブロベナゾール	0.03
37	クロルニトロフェン(CNP) <b>※7</b>	0.0001	95	ブロモブチド	0.1
38	クロルビリホス <b>※2</b>	0.003	96	ベニマル <b>※11</b>	0.02
39	クロロタロニル(TPN)	0.05	97	ベンシクロン	0.1
40	シアノジン	0.001	98	ベンゾピシクロン	0.09
41	シアノホス(CYAP)	0.003	99	ベンゾフェナップ	0.005
42	ジクロン(DCMU)	0.02	100	ベンタブン	0.2
43	ジクロベニル(DBN)	0.03	101	ベンディメタリン	0.3
44	ジクロルボス(DDVP)	0.008	102	ベンフラカルブ	0.02
45	ジクリット	0.01	103	ベンフルラリン(ベスロジン)	0.01
46	ジスルホトン(エチルチオメタン)	0.004	104	ベンフレセート	0.07
47	ジチオカルバメート系農薬 <b>※8</b>	0.005 (二硫化炭素として)	105	ホスチアゼート	0.005
48	ジチオビル	0.009	106	マラチオン(マラソン) <b>※2</b>	0.7
49	シハロホップブル	0.006	107	メコブロップ(MCPP)	0.05
50	シマジン(CAT)	0.003	108	メミル	0.03
51	ジタメトリル	0.02	109	メタラキシル	0.2
52	ジタエート	0.05	110	メチダチオン(DMTP) <b>※2</b>	0.004
53	シメトリル	0.03	111	メトリノストロビン	0.04
54	ダイアジノン <b>※2</b>	0.003	112	メトリブジン	0.03
55	グイムロン	0.8	113	メフェナセット	0.02
56	ダゾメット、メタム(カーバム)及びメチルイソチオ シアネット <b>※9</b>	0.01 (メチルイソチオシアネットとして)	114	メブロニル	0.1
57	チアジニル	0.1	115	モリネート	0.005
58	チウラム	0.02	-	-	-

農薬類に関しては委託検査機関で検査が可能なものに限り、表2における頻度で検査を行うこととする。

**※1** 1, 3-ジクロロプロベン(D-D)の濃度は、異性体であるシースー1, 3-ジクロロプロベン及びトランスー1, 3-ジクロロプロベンの濃度を合計して算出すること。**※2** 有機リン系農薬のうち、EPN、イソキサチオン、イソフェンホス、クロルビリホス、ダイアジノン、フェニトロチオン(MEP)、ブタミホス、プロチオホス、マラチオン(マラソン)及びメチダチオン(DMTP)の濃度については、それぞれのオキソイン体の濃度も測定し、それぞれの原体の濃度と、そのオキソイン体それぞれの濃度を原体に換算した濃度を合算して算出すること。**※3** エンドスルファン(ベンゾエビン)の濃度は、異性体であるα-エンドスルファン及びβ-エンドスルファンに加えて、代謝物であるエンドスルフェート(ベンゾエビンスルフェート)も測定し、α-エンドスルファン及びβ-エンドスルファンの濃度とエンドスルフェート(ベンゾエビンスルフェート)の濃度を原体に換算した濃度を合算して算出すること。**※4** オリサストロビンの濃度は、代謝物である(5Z)-オリサストロビンの濃度を測定し、原体の濃度と、その代謝物の濃度を原体に換算した濃度を合計して算出すること。**※5** カルタップの濃度は、ネラリストキシンとして測定し、カルタップに換算して算出すること。**※6** グリホサートの濃度は、代謝物であるアミノメチルリン酸(AMPA)も測定し、原体の濃度と、アミノメチルリン酸(AMPA)の濃度を原体に換算した濃度を合計して算出すること。**※7** クロルニトロフェン(CNP)の濃度は、アミノ体の濃度も測定し、原体の濃度とアミノ体の濃度を原体に換算した濃度を合計して算出すること。**※8** ジチオカルバメート系農薬の濃度は、ジネブ、ジラム、チウラム、プロビネブ、ボリカーバメート、マンゼブ(マンコゼブ)及びマンネブの濃度を二硫化炭素に換算して合計して算出すること。**※9** ダゾメット、メタム(カーバム)及びメチルイソチオシアネットの濃度は、メチルイソチオシアネットとして測定すること。**※10** フェンチオン(MPP)の濃度は、酸化物であるMPPスルホキシド、MPPスルホン、MPPオキソゾンスルホキシド及びMPPオキソゾンスルホンの濃度も測定し、フェンチオン(MPP)の原体の濃度と、その酸化物それぞれの濃度を原体に換算した濃度を合計して算出すること。**※11** ベノミルの濃度は、メチル-2-ベンツイミダゾールカルバメート(MBC)として測定し、ベノミルに換算して算出すること。

2026年度 岡山県南部水道企業団 水質検査計画

-水質検査計画に関するお問い合わせ先-

岡山県南部水道企業団 施設課 浄水係

所在地 〒710-0807 岡山県倉敷市西阿知町247番地の1

TEL 086-465-5050 <代表>

FAX 086-465-5056

E-MAIL nansui@nansui.or.jp

ホームページ <http://www.nansui.or.jp>